

左京区北部山間地域の将来像 検討に向けたワークショップ

2026年3月7日(土)

まとめ報告会

左京区役所

実施日2026年2月21日 (土)

地域住民の声から描く、地域の将来像づくりに向けて

主催：左京北部山間地域自治連絡協議会

共催：左京区役所

運営・分析：特定非営利活動法人きょうとNPOセンター



本会の目的と地域の基礎情報

◎ 開催目的

左京区の北部山間地域は、豊かな魅力と資源にあふれる一方で、人口減少や高齢化といった課題にも直面しています。

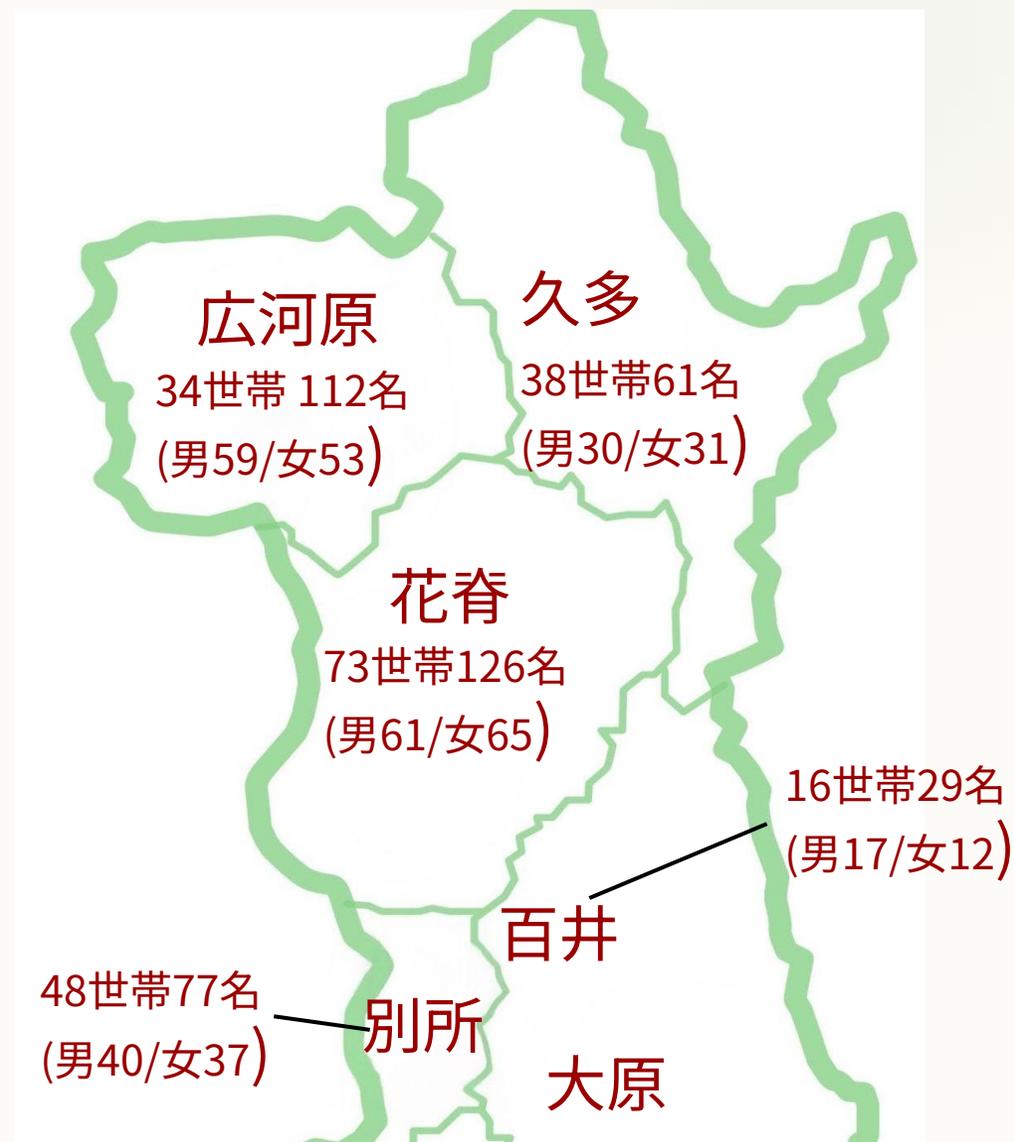
2025年12月に各地で開催したワークショップに続き、地域出身だが現在都市部に住んでいる方や、地域で活動している方などの視点から意見を収集するためのワークショップとして、左京北部山間地域自治連絡協議会の主催の下、左京区役所で開催しました。

本報告では、皆さまから上がった意見とその分析結果を共有します。

◎ 地域の基礎情報（左京区北部山間地域全体）

🏠 総世帯数：209世帯

👤 総人口：405人（男207人、女198人）



本ワークショップの概要



本ワークショップの概要

実施日：2026年2月21日（土） 14：00～16：00

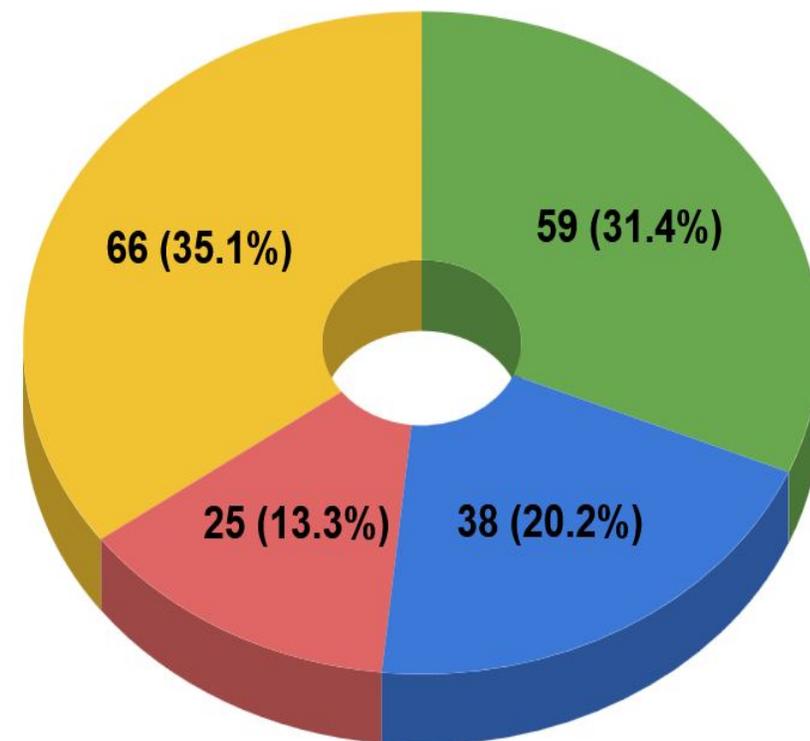
会場：左京区役所大会議室

参加者数：34名（N=34）



分析の区分

- ① 積極的に取り組みその効果を期待するものや、活用していききたい資源など
- ② 経過を観察するもの、今のままであって欲しいものなど
- ③ 取り組んでいるものの成果が見られないもの
- ④ 新たな取組として創造するもの



カテゴリ①：積極的に取り組みその効果を期待するもの、活用していきたい資源など(1)

○伝統文化の継承と外部発信の強化に関すること

- ・久多の「花笠踊」を都市部（市街地）で出張披露をしている。
- ・「松上げ」などの伝統行事を継承する。地元を離れた元住民が帰郷する重要なきっかけとして位置づける。
- ・「松上げ」などの伝統行事とその文化的価値について地域外への発信を強化する。

○地域資源を活用した商品のブランド化と産業化の推進に関すること

- ・高品質な炭、山椒、チマキザサ、日本ミツバチのハチミツなどの特産品を北部山間地域全体で商品としてブランド化する。
- ・「花脊」でなく「京花脊」といった京都ブランドを冠したネーミングやマーケティングを行い、行政の補助金に依存せず自立した産業を推進し後継者を育成する。

○広報活動と観光開発に関すること

- ・豊かで美味しい水源があること、京都の夏は盆地で酷暑であると知られているが、ここ北部山間地域は都市部に比べて比較的涼しいという利点を生かし、避暑地としての価値を発信する広報活動を強化する。
- ・京都バスを活用した着地型ツアー^{*1}の企画など、自家用車でなくとも観光できる環境を整備する。

脚注

1：旅行者を受け入れる「地域」で作られる旅行商品のこと。

カテゴリ①：積極的に取り組みその効果を期待するもの、活用していきたい資源など(2)

○関係人口の創出と移住促進体制の整備に関すること

- ・高校、大学進学後も若年世代が地域で就労（「Uターン就職^{*2}」）ができるよう、就労環境の創出と定住できる環境を整備し、移住意欲の醸成を図る。
- ・醤油づくりや採蜜（さいみつ）ワークショップ等の取組を継続して実施し、都市部（市街地）からの関係人口を創出する。

○福祉サービスと地域コミュニティの活性化に関すること

- ・住民の交流の場である出張カフェ等の取組を継続・拡充する。
- ・住み慣れた地域で最期まで安心して暮らせるよう、SNS等を活用した地域の魅力発信により、介護スタッフの呼び込み等に取り組む。

○次世代を育む教育環境の維持に関すること

- ・子育て世帯の移住の主な理由となる小学校の少人数教育や保育園の教育環境を維持するとともに、都市部にはない教育環境の魅力を積極的に発信する。

脚注

2：地方から都市部へ移住したものが再び地方の生まれ故郷に戻ることに。

カテゴリ②：経過を観察するもの、 今のままであって欲しいものなど(1)

○地域コミュニティと自治会に関すること

- ・「自治会」だけでなく地域の伝統的な話し合いの場である「御講（おこう）」は地域外に居住する元住民が帰郷し議論する大切な場となっている。引き続き、困りごとを共有する場として継続させる。
- ・地元地域住民だけではなく、地域外に居住する元住民にも自治会費の納入を続けてもらう。

○伝統行事の継承とイベントに関すること

- ・松上げの人手不足という課題に対して、近隣地域での協力体制の構築、地域外部からの参加受け入れなど、地域の実情に合わせた形式への転換を図る。松上げは、過去に死傷者が発生したこともある危険なお祭りという側面もある。安全に開催できるように取り組み、継承活動を行う。
- ・長年継続してきた都市部（市街地）から来訪向けイベントが、本当に地域課題の解決に寄与しているかの検証が必要。

○交通インフラに関すること

- ・花脊峠のトンネル化が進展しない。要望活動を続けるとともに道路整備を継続してもらえるように要望する。
- ・現行の峠道の景観を活かした観光化や道路環境整備のあり方を検討する。
- ・大規模な道路拡張ではなく、現在ある森、水、川、そして農村の景観を維持する。

カテゴリ②：経過を観察するもの、 今のままであって欲しいものなど(2)

○「交流の森」の活用と森林資源の適正管理に関すること

- 行政から大規模な予算を投じてトレッキングコースが整備される予定がある（京都市産業観光局農林振興室「森林文化・自然環境価値創造プロジェクト」）。今後においては、地域住民も一体となって整備後の観光事業創出を検討する。
- スギやヒノキの価格が下落する中で不要な木の伐採を進め、広葉樹の植樹を行い、水源と自然環境の適切な管理・維持を行う。
- 宿泊施設『翠峰荘』の再生、地域環境や資源に詳しい住民をガイドとして雇用する仕組みを検討する。

○「花友はなせ」の存続と地域福祉の使命に関すること

- 社会福祉法人が運営する高齢者施設『花友はなせ』は、赤字覚悟でも「地域のために」という強い使命感で運営されており、都市部（市街地）からの入居も受け入れながら施設の存続と雇用の維持に努められている。
- 今後は介護保険外の事業や、地域住民が望む新しい形での施設利用（高齢者が集まれるスペース等）についても模索していく必要がある。

カテゴリ③：取り組んでいるものの成果が見られないもの

○交通インフラ・新たなアクセスルートによる利便性の向上に関すること

- ・花脊峠のトンネル化について、長年要望し続けているが進展がない。
- ・滋賀県方面を含む新たなアクセスルートを検討する。京都市内方面への接続ではなく、滋賀（堅田・大津方面）へ抜ける新たなルートを整備し、京北地域を含む京都市山間地域の生活利便性の向上や広域連携の可能性を模索する。

○外部依存による活動と関係人口に関すること

- ・大学や外部コンサルタントによる支援が単年度や一過性で終わり、その後の持続的成果につながらず地域側に負担ばかりが増えている。
- ・単に「関係人口」や「観光客数」が増えることだけを喜び、地域や住民の利益、定住に結びついていない現状を見直す。

○空き家活用と土地の境界確定の困難さに関すること

- ・仏壇や墓の問題、相続未完了などの状態で空き家が放置され、倒壊を待つだけの状態となっている。
- ・山林の境界線の確定が進んでおらず、管理や次世代への引き継ぎが大きな負担となっている。

○地域組織の過度な負担と担い手不足に関すること

- ・特定の地域住民が自治会など複数の役職を兼任しており、負担が重すぎて地域の活力を削いでいる。
- ・この10年でアンケート配布数から見ても、約4割減るほど人口が減少しており益々深刻な問題となっている。
- ・市街地（都市部）より高い自治会費や共同アンテナの維持費などが負担増になっている。

カテゴリ④：新たな取組として創造するもの(1)

○デジタル技術を活用した情報共有・発信に関すること

- ・多様な行事があるにも関わらず、地域住民の参加は少ない。これは、住民がそうした催しがあることを知らないことも理由に上げられる。地域住民向けに、返信不要でお知らせを目的とした公式LINEやSNSグループを活用し、この地域でどのような取り組みが行われているのかわかる情報発信を行う。
- ・観光客向けに、ライブカメラやオンラインビジターセンターを設置し、降雪・積雪など交通アクセスの情報や地域の魅力を外部へ発信する。
- ・フォトスポットの整備やドローン映像の活用による、分水嶺や桂川源流地域の新たなブランディングに取り組む。

○観光拠点の整備と滞在型観光の創出に関すること

- ・鞍馬～別所の絶景ポイントに気軽に車を止めることができる場所を整備する。観光客、地域住民が気軽に立ち寄り、飲食や休憩が取れる、特産品の販売をする「道の駅」のような拠点を左京区北部山間地域に整備する。
- ・空き家を「宿泊機能付きの農業体験拠点」や「短期滞在施設」として活用し、関係人口を創出する場として活用する。

○伝統行事の開放と地域課題のイベント化に関すること

- ・担い手不足解消のため、地域の祭りなど伝統行事の参加資格を「地域外の人」や「女性」にも広げ、開かれた文化継承を目指す。
- ・「雪かき」や「土木作業」等地域にある課題をイベント化し、外部からのボランティアや学生が楽しみながら地域課題に触れ解決する仕組みを構築する。

カテゴリ④：新たな取組として創造するもの(2)

○現代的なニーズに応える居住環境の整備に関すること

- ・若者や核家族ニーズに沿った住みやすい住環境を整備し、気密性の高い現代的な賃貸住宅を新設し、定住を促進する。

○交通インフラと移動支援システムの構築に関すること

- ・生活道路の整備及び観光利用を見据えたオートキャンプ場設置など、利便性と交流を両立するインフラ整備を行う。
- ・公共交通機関の増便や、ライドシェアを含めた新たな移動支援システムの構築に取り組む。
- ・病院の受付時間に合わせたバスダイヤの調整や、地域内でのライドシェアなどの地域住民の生活に即した移動支援策を具体化する。

○交流の森の入浴施設と生活支援に関すること

- ・山村都市交流の森の入浴施設を復活させ、地域の介護支援や観光客の休憩場所として再稼働させる。

傾向と特徴(1)

○ 地域資源のブランド化と自立した産業化に関すること

地域の豊かな自然や文化を単なる「宝物」に留めず、収益や雇用を生む「産業」化へつなげたいという想いがある。例えば、高品質な炭やしば漬け、山椒、蜂蜜などを「京花脊」といった京都ブランドを冠して展開し、行政の補助金に依存しない自立した産業を推進し、また、都市部の酷暑に対する避暑地としての優位性を活かし、広報活動を強化したいという意見があった。

○ 「関係人口」の質の転換と担い手確保に関すること

単なる観光客の増加ではなく、地域の課題解決に直接関与する「関係人口」の創出を重視し、「雪かき」や「土木作業」といった地域の困りごとをイベント化し、外部の学生やボランティアが楽しみながら参加できる仕組が検討されている。一方で、ボランティアの受け入れなどの関係人口を創出する取組は、地域側に負担を強いる側面があり、そこで芽生えた関係人口を移住など次に生かすことができていないという意見もあった。

また、担い手不足を解消するため、伝統行事の参加資格を地域外の人や女性にも広げようとする、開かれた文化継承の姿勢が見られる。

○ 地域組織の運営負担と外部協力者への依存に関すること

地域組織では、特定の住民が複数の役職を兼任しており、負担が非常に重くなっている。この10年でアンケート配布数が約4割減るなど、人口減少の加速が組織運営を直撃している。大学や外部コンサルタントによる支援が単年度で終わり、成果が定着せずに地域の負担だけが増えている現状に対し、地域が外部に「利用される」のではなく「利用する」立場になる必要があるといった意見があった。

傾向と特徴(2)

○デジタル活用と交通インフラの現代化に関すること

現代のニーズに合わせた情報発信と、山間地域特有の不便さを解消するインフラ整備が求められている。公式LINEでの情報共有や、積雪・凍結等路面状況を知らせるライブカメラの設置など「情報の可視化」を、デジタル技術を活用し住民・観光客双方に活用する案が出ている。長年の悲願である、花脊峠のトンネル化が進展しない中、既存の公共交通に加え、ライドシェア（相乗り）や病院の受付時間に合わせたバスダイヤ調整など、より生活に密着した移動支援システムの構築が模索されている。

○地域住民の取組と地域間での協力に関すること

左京区北部山間地域には、醤油作りや採蜜（さいみつ）といった都市部（市街地）では体験できない貴重な活動があるものの、地元地域住民に十分に知られていない、共有されていないという課題がある。まずは地元地域住民自身がこうした取組を知れるよう、返信不要のLINEなどを使用し、情報共有を行う仕組み作りを求める声が上がった。また、人手不足が深刻な「松上げ」等の伝統行事において、各地域で実施日が異なることを生かし、警備など相互に協力し合い運営するという改善の提案があった。

そのほかの意見

① 積極的に取り組みその効果を期待するものや、活用していきたい資源など

- **後継者育成の具体策:** しば漬け作りだけで暮らせる程度の収益化を図り、後継者に渡したいという意欲。
- **「一人暮らし用健康食」と水質のPR:** 花崗岩（マンガン含有）由来の香りの良い水や美味しい野菜を生かし、一人暮らしでも取り寄せたくなる健康食を開発し、鞍馬などで販売するアイデア。
- **PTA・学校活動の「楽しさ」:** 「子供が少ないから親にも役割がたくさんあるが、運動会やPTA活動そのものが移住者にとって面白かった」という、単なる負担ではないコミュニティの魅力。
- **行政補助金の壁:** 別所の神社修繕時、「釘」を使ったことで伝統的ではないとみなされ行政の補助が降りなかった。

② 経過を観察するもの、今のままであって欲しいものなど

- **移住促進について:** 今のままでいい、新規移住者はあまり求めているという、一概に移住促進を求めているわけではないという地域感情。
- **「翠峰荘（交流の森）」と温泉:** かつて温泉を掘ろうとしたが、温度が27度と低すぎて断念した。それでも「温泉」が欲しい。
- **「花背山の家」について:** 京都市内の小学生全員が知る「ブランド」だが、現在の山の家には「花脊の良さを伝えようとする気概」を感じず、地域にも開かれていない。

③ 取り組んでいるものの成果が見られないもの

- **定住の壁:** 移住できない理由は、家族の反対がひとつの要因である。

④ 新たな取組として創造するもの

- **大学生の「合コン」を農業イベント化:** 「大学生の新歓コンパや合コンを交流の森や農業イベントとして実施する」という、若者を呼び込むための割り切ったアイデア。
- **寺院による「仏壇・位牌」預かりサービス:** 空き家活用の最大の壁である「仏壇を動かさない」という問題を解決するため、寺院で位牌を預かるサービスを構築する案。